



夏、昔は夏休みが楽しみでしたが大人になると、ちょっと苦手な人も多くなっているのでは？ 我が家は末っ子が国際結婚をしてカナダに住んでいます。その娘が「オタワのシェルターは面白いから日本でも参考にしたら？」と言うので8月、邦一院長と視察に行ってきます。文永堂さんから、そのレポートを頼まれているので現地でのアイデアを、帰国後また皆さまにご報告したいと思います。 清水 宏子

NEWS

6月7日(日) 動物医療発明研究会・第24回総会が開催されました。
臨床の先生を含めて全13名が参加。皆さんで和気あいあい・なごやかな雰囲気にて無事終了。

①会長挨拶

ここ数年、犬の数が減って、猫は横ばいの数と言われているようですが、臨床の現場でみていると、本当に動物が好きで飼いはじめ、かわいがってくれる人は増えている気がします。また、保護犬、保護ネコのみならず保護ウサギなどかわいそうな子たちをペットに迎い入れる人も増えています。発明研究会は開業した医師だけでなく、出版関係・企業・学校関係の方も集まります。これからのペット業界を発展させるためには、様々な分野の人たちと意見交換やアイデアを出し合っていくことが大切だと思います。年1回の総会は、無料セミナー付きで、お役立ち座談会になるので、また皆様のお越しをお待ちしています。

②全員 ミニ自己紹介(順不同)

③会計：2014年決算報告および2015年予算案の説明がなされ承認されました。

④活動報告：

- ★ニュースレター3回発行(No.37~39・2014.7、10、2015.1)
- ★セミナー付き総会(小暮先生、中畑先生、清水両名) 2014.6

★内科学アカデミー教育講演(中山先生、清水) 2014.2

★シミドのレシピ(大阪) ★臨床のアイデア(長崎)

★本・DVD=SAMIのアイデアを入れて(文永堂・医療情報研究所)

★無料セミナー付き総会案内を各出版社に依頼(インターズ・文永堂・NJK・フュームプレス・緑書房)

⑤活動予定：ニュースレター3回(企業資料のポスティング+¥1,000)・連載依頼(中山先生・佐藤剛先生)・内科学アカデミー(中山先生・清水Family) 2015.2 / 帯広セミナー 2015.7・名古屋セミナー2015.9(清水Family)

♡ご希望により清水Familyボランティア無料講演、院内セミナーで全国各地へ出向き新会員を獲得します。

⑥無料セミナー 工藤先生 = 高齢犬と楽しく過ごすアイデア
清水Family = ウサギの診療のアイデア

★参加者のご感想★

本日は色々な話が聞けてとても楽しい時間を過ごせました。
自分の生活に、また仕事に生かしてみたいと思います。



動物医療発明研究会・第24回総会にご出席いただいた皆さま



【臨床(開業関係)】

小暮 規夫先生 小暮動物病院(東京)
中畑 雅紀先生 中畑動物病院(小樽)
山口 潤先生 希望の丘どうぶつ病院(石川)
松澤 悦子先生(川越)
清水 邦一 清水動物病院(横浜)
清水 宏子 清水動物病院(横浜)

【企業】

林 裕之さま 林刃物(岐阜)
片岡 司さま 千寿製薬株式会社(大阪)
工藤 美保先生 P&V(東京)
大西 勉さま 株式会社浅井フーズクリエーション(??)
岩瀬れい子さま 日本ヒルズコルゲート株式会社(東京)

*順不同

【学校関係】

川鍋 美紀子先生 シモゾノ学園(東京)

【出版社】

太田 宗雪さま インターズ(東京)

SAMI 第24回 総会
開催日時：
平成 27年 6月7日
日曜日 午後1~5時





動物病院を継ぐこと

東京 新宿・木村動物病院 木村 太郎先生

私は、動物病院で生まれ、育ち、獣医師となり、父と同じように小動物の診療を行っていました。そして、父は亡くなり、動物病院を継ぐこととなりました。

当院は、父である木村順一郎が、新宿区神楽坂に、当時東京では数少なかった小動物専門の獣医科医院を1955年に開設したことから始まりました。人混みを嫌う父は、その後、神楽坂の発展とともに、少しずつ早稲田通り沿いを早稲田方向に移転を繰り返し、現在の場所に落ち着くこととなりました。外科学、麻酔学に造詣が深かった父は東南アジアなどに講演に出かけていたそうです。その努力により、毎日忙しすぎるくらいの診療業務を、その陰で大活躍していた母に大感謝をしながらこなしていた父ですが、少しずつ、体力の衰えを感じ始めていたようです。

そんな折

幸か不幸か、男女2人の子供は獣医師となり、約9年前から3年間長女である紀子が、その2年後から今まで、長男である私、太郎が帰参し診療業務を行っています。

父、姉、私は、それぞれ、獣医師として育った環境があまりにも異なっていたからか、喧嘩の毎日。飼い主様にまでご心配をいただくような日々でした。

私が帰参してからおよそ1年半。姉である紀子は、突然フランスに皮膚科専門研修に行きヨーロッパ皮膚科専門医の取得をめざし現在渡仏、結婚と出産によりヨーロッパ皮膚科専門医の取得は達成されていないものの、現在はヨーロッパ獣医師免許取得を目指し努力しています。

私が帰参してから2年ほどたった頃、父は大病を患い病院通いの身となりました。当然病院での一般診療を行うことはできなくなりましたが、自由気ままに往診へ出かけ、在宅治療が困難であると判断した場合は連れて帰り、入院治療を行っていました。

開業から今年でちょうど60年になる当院は、父の人柄からか、笑顔の絶えない、素敵な患者さんに恵まれていました。父が当院での一般診療を行わなくなってから、父と私のいろいろな違いに、飼い主様の中にはなかなか満足していただけるができず、お叱りをいただくこともありました。

飼い主様の「ご期待に沿う」こと、「父と同じような診療」を目指すこと、「私の診療理念」が頭の中で交錯し、なんとなくもやもやした感覚の日々が父が亡くなるまでの2年間続きました。

父は、亡くなる2日前の午前中、自宅二階の病床から診療中であった私を呼びました。診療中に呼ばれることは初めてのことでした。仕事上の経験からか、今からわずかにお話をせらう時間が父との最後の時となることを感じていた私は、心の底から湧いてくる悲しさや寂しさを抑えながら、階段を上りました。

父は、3つだけ私に言いました。1つは母をとにかく大事にすること、もう1つはとにかくこれからは自分の思う通りに診療しなさいということ。最後に、姉と私は、自慢の子供達であったこと。

私も姉も面と向かって父に褒められたことは、あまり記憶にありません。母を大事にすることを伝えられた以外は、驚きました。

なんとなく、「ずるいな」という感覚がわずかに有り、そのあとはいくつもの感情が混じった複雑な余韻が残りました。

父が亡くなった後も、患者様、スタッフに支えられて、ありがたいことに動物病院を続けていることができています。また、少しずつ学会活動などの幅も広がってきています。動物病院は、社会的には少数派である動物を飼育している、中でも熱心な飼い主様によって支えられています。あまり想像してなかった家業を継ぐことは、

福祉サービス業という側面をもつ「医療」であります。なかなか難しい仕事のひとつではありますが、尊敬する父の病院を継ぎ早一年、現在に至っています。



若き日の父 木村 順一郎

★父が残してくれた麻酔器
(Penlon社 AV900)
麻酔モニタは全てPCに自動入力されます



まぶたマッサージ

犬・猫・ウサギ
人もおなじ

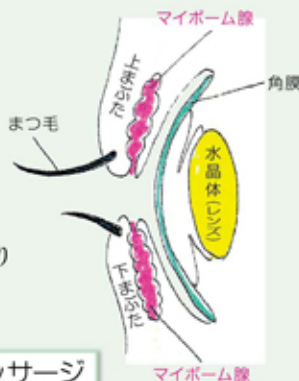
横浜市・清水動物病院 清水 邦一先生

トライアングル動物眼科診療室・齋藤先生のセミナーは発見がいっぱい!!

効果 まぶたのふちから出る
マイボーム腺の
機能を改善します。

マイボーム腺から出る脂質は…

- 1/涙の表面を覆って乾燥を防ぎます。
- 2/まぶたを覆って防水作用により涙が溢れるのを防ぎます。



まぶたのマッサージ

まぶ毛をつかんで
やさしく閉じるを繰り返す



- 1/ヒアルロン酸の点眼液をつける。
- 2/まぶたを10~20回開けたり閉じたりしてふちを軽く圧迫します。
- 3/余分な液と汚れをやさしく拭き取ります。

まぶたの温め

- 方法1/保冷剤などを温めてそっと目の上にあてます。
- 方法2/手をお湯に浸し、温めたあとそっと目の上を覆います。



ニャンコのつぶやき

猫ハアちゃん
大好き大好き
猫ハアちゃん
色んな食べ物いつも満腹
最近少しメタボなの
天井近くのコタツ
冬は特等席
夏は暑すぎる
ニャンでこんなに
違うのかな



ゴニゴニ

佐藤大猫病院(三軒市)佐藤 剛作

ワンコのつぶやき

ぶにゅぶにゅ
ぽにゅぽにゅ
上向き抱っこで
ぶにゅぶにゅ
ぽにゅぽにゅ
食べても食べても
吐いちゃうの
お腹が痛くて
伸びないの
肥っているからかな





脊椎・脊髄 疾患的 回想録＊3

中山 獣医科病院
(奈良県奈良市)

中山 正成先生



6. 線維軟骨性虚血性脊髄症

脊髄造影検査を行っても診断に苦慮する症例が現れてきた。秋田犬が、突然両側前肢を跛行するという主訴で来院した。整形外科的な異常は見られず、中枢神経疾患を疑い脊髄造影検査を行った。結果は正常な脊髄造影所見で診断に苦慮した。カリフォルニア大学デービス校を訪ねる機会があったのでX線フィルムを持参し放射線、神経専門医に診ていただいた。椎間板ヘルニアではない、脊髄内外腫瘍でもない、脊椎骨にも異常はない、脊髄内で何か起こっているのだろう。除外診断で考えると、線維軟骨性虚血性脊髄症：Fibrocartilaginous embolic ischemic myelopathy：FCEではないかという診断であった。椎間板髄核が脊髄内の血管に梗塞するという、新たな発見である(第6回動臨研：1985)。当時の文献では国外に11報の報告があった。最近ではMRIにより脊髄実質の描出が可能となり、FCEを疑う症例の報告が増えている。

7. 酵素的髄核融解法

脊髄造影検査で、多発性に椎間板ヘルニアが認められる例も多く、最も重度なハンセンI型の部位は片側椎弓切除術を行い、隣など近隣の椎間板は造窓術を行っていた。しかし遠い部位にもある場合さらに切開しなければならなかった。そのような時、プロゴルファーの岡本綾子がマイアミで経皮的にキモパpain：chymopapain椎間板注入療法を受けて成功したと聞いた(1985)。Chymopapainは1964年Lyman Smithが最初に報告した。酵素的髄核融解法：intervertebral disk chemolysisという。これは犬にも応用できるかもしれないと考えて探したが、日本では入手できなかった。そこで化学試薬を入手してミリポアフィルターで除菌して使用し始めた。多発性のハンセンタイプIIには非常に効果があった。

(日本臨床獣医学会賞：近畿1989)

その後、生化学工業株式会社が、コンドロイチナーゼABC：Chondroitinase ABCを開発した。細菌のOroteus vulgarisが生産する分子量約100のタンパク質(酵素)で、コンドロイチン硫酸を強力に分解する。犬に適用できないかという相談を受けて使用し始めた。高橋響、諸角元二、千村収一、中原公彦各先生と私の5名でチームを作り臨床例に応用、研究し一定の効果を見ることができた。痙攣発作などの副作用もなく非常に良い酵素であるあることを結果として得られ国際誌に発表した

(Takahashi, Spine, 1997)。Chondroitinase ABCは、その後、人の腰椎椎間板ヘルニアに対する第II相臨床試験の日本での実施許可を得て、2008年から日本での治験を開始している。また、この酵素は損傷した脊髄に投与すると、脊髄修復を阻害する因子を除去することが確かめられた

(Bradbury, Nature, 2002)。

しかし、まだ市販されていないのが残念であり、早期に市販されることを望む。

一方、一時期(1984)、造窓術(Fenestration)ですべての椎間板ヘルニアを治療できるという発表があり、全国的に手技が広がった。造窓術は予防的髄核摘出術であり、ハンセンタイプIには全く無力であると私は考えていた。

また、経皮的にレーザーを用いて髄核を蒸散する手法が開発さ

れた。(経皮的椎間板レーザー蒸散術：Percutaneous Laser Disk Decompression：PLDD, KE Bartels, JAVMA, Vol.222, No.12, 2003) PLDDはハンセンタイプIIに対する治療また予防的に行われ効果が確認されている。

8. 脊髄手術中超音波検査

片側椎弓切除術の実施症例数が増加してきたころ、ヘルニアを起こした髄核物質を完全に除去できているのかという疑問が湧いてきた。メトリザイドは速やかに排出して手術後X線を撮っても脊髄造影所見にならなかったのも、もう一度脊髄造影を行い術後の確認を行っていた。

そのような中、愛媛県松山市の国立温泉病院の山岡賢児博士が人の頸椎の椎間板ヘルニアを前方アプローチ(ベントラリスロット)で椎体に穴をあけたとき超音波で脊柱管内の様子を画像にされ、術後閉鎖する前に髄核物質を完全に除去できたかどうか超音波で確認されていると聞くに及んだ。

この手技は、まさに私の悩みを解決してくれるかもしれないと思い、手紙をしたためた。すぐに電話があり手術のある日に来てくださいと言われた。早速、松山市に飛んで行ったところ、犬でも脊髄手術をするのか、言葉を話さない犬の椎間板ヘルニアの診断法はどのようにするのか、と矢張り早に質問が来た。先生の手技を丁寧に教えていただき手術場で見学させていただいた。この手技を教えていただき、見学させていただき、犬にも応用できる、役に立つと帰路の飛行機の中で確信を持った。

当時の超音波診断装置は3-5MHzのプロープが主流であったが、手術中に脊髄超音波検査を行うには、近距離を観察するので、より高い周波数のプロープが必要で、山岡先生おすすめのAloka社の超音波診断装置、7.5MHzのプロープを購入した。非常に高価であったのを覚えている(1989)。Aloka社は超音波診断装置を世界で初めて製品化したことで知られる(1960)。

脊髄手術中超音波検査：Intraoperative Spinal Ultrasonography：IOSUの手技は、椎弓を削り、骨窓を作成して、術野に温めた生理食塩水を泡が入らないように静かに満たす。脱出した髄核物質を除去する前にIOSUで観察する。髄核物質を除去しながら何度もIOSUで観察する。取り残しがないと判断できれば手術を終了するというものである。この手技により、取り残しがないかという不安が解消され、確実に髄核物質を除去することが可能となった。

さらに、脊髄内腫瘍の摘出にも有用で、血管を確認しながら確実に切除できる。また、脊椎骨折の場合、背側椎弓切除術を行い、脊椎骨を整列するために、また骨片が脊髄に当たっていないかなどの識別に役立つ。IOSUでクモ膜嚢胞、脊髄軟化症も診断可能である。これら研究業績をまとめて、シドニーで開催された国際獣医放射線学会でIOSUについて発表した(1988)。英語による口頭発表と英文の論文作成には、現在、福岡で活躍されている宮林孝仁先生に大変お世話になった。

IOSUの論文を発表して、すぐに別刷り請求の葉書が沢山来た。そのうちの一枚は神経解剖学の権威、コーネル大学のDr. DeLahuntaからで、著名な先生からのリクエストには感激した。当時は興味ある論文が出版されると、論文の別刷りを葉書で請求する習慣があり、著者としては葉書が来るのが名誉とされていた。(Application of Intraoperative Spinal Ultrasonography: 第8回国際獣医放射線学会、シドニー、1988、脊髄手術中超音波検査：Intraoperative Spinal Ultrasonography (IOSU), 獣麻外, 1992, Vet. Rdi. Ultra. 1993) これらの論文は、今も欧米の画像診断学や神経病学の教科書に引用されて非常に嬉しく思う。また北里大学から授与された獣医学博士論文の主軸となった。

(つづく)

【新入会員】



島崎 博美 先生

表参道ペットクリニック
(札幌市中央区)卒業校: 酪農学園大学
出身地: 札幌市島崎 晃 院長
酪農学園大学 卒業
大阪市 出身

☆病院の紹介

平成5年9月、札幌市中央区北1条西20丁目(北海道神宮の「表参道」)で開業し、平成7年3月に移転しました。

現在は、札幌市の中央に位置しながら、道立近代美術館と知事公館の沢山の木々が生い茂った庭に隣接しており、待合室でじっとしているのが苦手な子は、知事公館の庭にいたただくなど、動物にも人にもやさしい環境です。

☆ポリシー

ペットとオーナー様の幸せな生活をサポートする

☆過去の発明・発見・アイデア自慢

病院内の床貼り替えをした際、『光なし触媒』を、院内の床、待合室の椅子、診察台、ケージ、窓ガラス、などに塗布しました。

☆そのきっかけ、生まれた理由

開業依頼、朝夕多くの時間を院内の清掃に掛けてきました。しかし、手を抜くわけにもいかなないので、この効率化には頭を悩ませて来ました。最初は光触媒を検討していました。ただ光の入らないところには使えないので、他の方法が無いかと検討していた時に、『光なし触媒』を知りました。塗布しておくで使用条件にもよりますが、2年間くらいは効果が継続し、臭いの原

因菌の増殖を防いでくれます。衛生対策には非常に役立ちましたし、同じく清掃していても院内の空気が爽やかになりました。動物病院には強い味方だと思います。ちなみに、業者の方に依頼すると壁を張り替えるくらいの料金でしたが、噴霧器を借り自分で塗布すると、費用は10分の1位で済みました。

☆皆さんに役立つ失敗談

検査機器の上のオープン棚に、液体の薬剤を保管していたところ、興奮した猫が爪で穴をあけて棚から落としてしまったことがあります。基盤に液体が落ちてしまい、事後処理が大変でした。

☆これからやりたいこと目標(仕事でも趣味でも)

無農薬栽培の農業に関わっています。アレロパシー(ある植物が他の植物の生長を抑える物質・アレロケミカルを放出したり、あるいは動物や微生物を防いだり、あるいは引き寄せたりする効果の総称)を研究し、健康に役立つ物質を臨床に役立てたいと。

☆今、夢中になっていること、取り組んでいること

各国の伝統医学の研究。畑。

☆発明研究会の皆さんに伝えたいこと

人も動物も「健康寿命」を延ばすことは、共通の関心事だと思います。獣医師はつい自身の健康管理が後回しになりがちと感じています。楽しい時間が長く続く工夫をして、努力していきますのでよろしくお願い致します。

☆発明研究会で自分がやりたいこと発表したいこと

清水先生ご夫妻の病院を訪問して、入会を決めました。

「困っていることをアイデアで快適に!」を日々実践したいと思います。



新入会員

株式会社 医療情報研究所 奈良県大和高田市 / DVD教材販売事業・WEBサイト製作代行業ほか
千寿製薬株式会社 大阪市中央区 / 医療最前線での新たな挑戦を進める眼科薬メーカー
表参道ペットクリニック 札幌市中央区 / ペットとオーナー様の幸せな生活をサポート

動物医療発明研究会のホームページ。会員病院の登録もできます。

hp@ispecial.co.jp



会員の病院・施設名、郵便番号住所、TEL&FAXとホームページアドレスを掲載します。ご希望の場合は、「SAMI-HP掲載希望」と明記して、データをメールにて、上記アドレスまでお送りください。

(運営受託: 株式会社アイ・スペシャル)



動物医療発明研究会事務局ではお役立ちのアイデアやエピソードを随時募集しています。メール、FAX、郵便でも受け付けていますのでお気軽にお寄せください。

SAMI NEWS 41号 発行日: 2015年8月15日

発行所: 動物医療発明研究会事務局

発行人: 会長 清水 邦一 / 編集人 野間 忠博

事務局: 230-0061 横浜市鶴見区佃野町3-3 清水動物病院内

メール: sah@vet.ne.jp

FAX: 045-583-3594 (電話: 045-583-3738)